



学校だより
ながや

令和2年度 第6号
令和2年 8月31日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

子どもが安心して生き生きと活動するために

校長 平野 好子

処暑（8月23日頃）の頃となりました。処暑は、暑さが和らぐという意味です。半月ごとの季節の変化を示す二十四節気をさらに約5日おきに分けて、植物の成長や動物の行動、気象の変化を知らせる農事暦の「七十二候」の一つです。厳しかった夏もようやく峠を越し、朝夕は涼風が吹き始める時期とされています。昼間の暑さはまだまだ厳しいものがあるものの、夜になり、耳を澄ますと、秋の虫が鳴き始めていることに気づかされます。季節は少しずつ秋に移り始めています。

例年に比べて短かった夏休みを終え、前期後半が始まりました。熱中症対策を講じながら、「3つの密を避ける」、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」などの新生活様式を継続し、学校教育活動を行っています。

先日、第1回なかよし活動を行いました。1～6年生のたてわりグループでの活動です。『自分の活動グループの友達の色や名前を知り、これからのなかよし活動を楽しみにする気持ちを育てる』ことをめあてとして行いました。この活動においても、密を避ける活動内容を検討し、実施しました。密集を避ける座席位置で、顔合わせや自己紹介を行いました。友達との距離を保ち、対面しない形でグループのめあてを決め、グループマークやグループ名について話し合いました。初対面の雰囲気や和らげ、仲良くなるためのなかよし遊びも席に着いたままできるゲームを取り入れるなど工夫しました。これまで、感染拡大防止の点で、学年を越えて交流する場を設定することができませんでした。そのため、6年生は、最高学年として、また、リーダーとして頑張ろうと意識を高めていたにもかかわらず、リーダーシップを発揮する場をもつことが、なかなかできませんでした。私は、6年生が活躍する姿を楽しみにして、活動の様子を見て回りました。緊張している低学年の子どもたちに視線を合わせるよう身をかがめて支援する6年生の姿がありました。「この日を待ってました」とばかりに、生き生きと活動する6年生の姿や他学年との交流活動を楽しむ子どもたちを目の当たりにしました。子どもたちが安心して、生き生きと活動できる学校教育活動をつくっていかねばならないとあらためて感じ、子どもたちの活躍する姿に私自身が大きなエネルギーをもらっていることに気付かされました。

今後の宿泊を伴う修学旅行や体験学習、日帰りの校外学習、スポーツフェスティバル、全校遠足等、そして、日々の学習活動についても、感染リスクを常に念頭に置きながら感染症対策の徹底を図り、実施可能なかたちをできる限り考えていきます。また、変化する感染症拡大状況やその時々最新の最新情報も得て、柔軟に、安心して行える子どもたちの学びを確保していきたいと考えています。

ご不安・ご心配な点も多々あるとは存じますが、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。